

## 地域資源（低利用の地場木材）を活用した商品開発・販路開拓

- ◆振興山村名：下川町
- ◆事業実施主体名：下川町
- ◆事業実施期間：H27～H29
- ◆交付決定額：25,724千円



個人事業主からの原料供給



木製品（モクコレ）展示

### ◎主な事業内容と効果

町内及び周辺50kmの範囲には地域資源である未利用材が多く存在しているが、森林バイオマスとして活用するための原料の安定供給体制が確立されていない。また、木質ボイラーの利用により、年間約20tの木灰が発生しており、肥料として利用できるが粉状のため散布が困難な状況であった。

そこで、町として森林バイオマスによる熱電併給システムの導入を目指し、地域関係者と協議・協力しながら、原料の安定供給体制構築のため、森林バイオマスエネルギーの先進事例や原料加工施設に係る調査及び木灰の造粒肥料開発に向けた調査・試験、また、地域内の未利用資源の有効活用のための木材製品の開発を行い地域内循環利用の取組を行った。

これにより、原料の安定供給体制が整い、森林バイオマス熱電併給システムを導入することで、雇用の創造と所得の増大が図られ山村の活性化が期待できるとともに、木材製品の開発など地域資源である未利用材の活用を図ることができた。

### ◎目標値の設定

- ①木質原料供給に伴う雇用創造 ～ 2年目（2名増）、3年目（5名増）
- ②林産業従事者数 ～ 2年目（2名増）、3年目（5名増）
- ③木質原料供給協議会 ～ 2年目（1社）
- ④木灰・木製品開発数 ～ 1年目（2つ）、2年目（3つ）、3年目（5つ）

### ◎事業のココがポイント

- ・木材の利用発掘事業では、広葉樹材を活用したテーブル遊具、小物開発。針葉樹材を活用したパーティション、ネームホルダー、間仕切りテーブルとユカハリタイル（カラマツ材、トドマツ材）を試作した。これらの試作品をつくばイオンモールや2018 モクコレ展でPRを実施した。

そうした中で、町外から木工芸製作者2名が移住した。

- ・木灰の地域内循環利用事業では、木灰肥料設備は大型化のため、年間数十t規模の木灰発生量では事業性が乏しい。よって、道内の既存企業での肥料として有効利用が可能となった。

- ・原料供給体制の構築では、森林バイオマス熱電併給事業の実施が遅れたが、平成29年12月に下川森林バイオマス原料供給協議会を設立することができた。また、個人の森林事業者から未利用間伐材、58t（平成28年度）を収集した。

### ◎事業実施において苦慮したこと

木灰の成分分析を行い肥料などとして、有益な成分が確認されたが、発生量が少なく単独事業としては、困難であったこと。